



Title	地域歯科保健のエキスパートとして国際保健を学ぶ
Author(s)	三浦, 宏子
Citation	目で見るWHO. 2024, 90, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/99621">https://doi.org/10.18910/99621</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 地域歯科保健のエキスパートとして 国際保健を学ぶ



北海道医療大学歯学部教授  
**三浦 宏子 (みうら ひろこ)**

歯科医師、修士（保健学）、博士（歯学）。北海道医療大学歯学部卒業後、東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻にて、国際保健学を学ぶ。国立保健医療科学院では、国際協力研究部長として、我が国の公衆衛生活動での経験・知見をアジア諸国に役立てるために、WHOとの合同研修やJICA研修に従事。現職においても国際保健に関する研究・教育活動に引き続き取り組む。

## 日本での公衆衛生活動に基づく国際保健の展開

国際保健を取り巻く環境の変化は大きく、アジア諸国の多くでは高齢化の進展に伴い、新たな健康づくり対策の構築や高齢者ケアのシステム作りが喫緊の課題となっています。わが国は、世界に先駆けていち早く超高齢社会を迎えており、高齢者保健に関する疫学研究の推進とともに地域包括ケアシステムをはじめとして様々な施策が展開されています。今後、高齢化がさらに進む多くのアジア諸国において、わが国の地域保健の学術知見および経験は大きく役立つものと考えられます。

国や地域によって抱えている問題点は大きく異なります。地域ごとの課題を複合的に分析し、その地域にニーズに見合った課題を的確に把握したうえで、介入策を導入することは、いずれの国でも強く求められるところです。グローバル化の進展に伴い、国内での公衆衛生活動と国際保健を一体的に考える視点がさらに求められます。

## 本学の特徴と学べること

私が所属している北海道医療大学は、6学部9学科から構成される医療系総合大学です。本学では、地域の保健医療課題の解決に寄与する人材の育成を大きなミッションとしており、キャンパスや学部学科を越え、3500人以上の学生が学んでいます。北海道は、全国の中でも人口減少傾向が顕著であり、高齢者保健の推進は喫緊の課題です。そのため、大学内に訪問看護ステーションや居宅介護支

援事業所および在宅歯科診療所を併設し、在宅医療・多職種連携の現場を踏まえた実習を実施するなど、超高齢社会に資する人材を育成しています。

また、表1に示すように、多くのアジア諸国の大学と提携を結び、学部生・大学院生の人材交流に取り組んでいます。特に、歯学部ではより実践的な人材育成に寄与すべく、マレーシアのマラ工科大学大学院で公衆歯科衛生を学んでいる大学院生を受け入れ、短期研修を行っています（写真1）。その大学院生のほとんどが政府や地方自治体で歯科保健施策に従事している専門職のキャリアを有しており、わが国とマレーシアの地域歯科保健対策の現状と課題について深いディスカッションを行いました。本学の学生も提携校での短期研修プログラムに参加し、その国々での保健医療システムについての学びを深めるなどの相互教育プログラムを行っております。

## 地域に根ざした共生社会の実現への取り組みに寄与する大学のあり方

SDGsの影響を受けて、健康日本21（第三次）等のわが国の健康施策においても「誰一人取り残さない健康づくりの推進」を掲げています。要介護高齢者や障害者児など保健医療サービスへのアクセスが困難な方々に、どのようにサービスを提供するかは世界共通の大きな課題です。提供される保健医療サービスは国や地域の状況やニーズに立脚する必要があります。地域に根ざした共生社会の実現（Community-based Inclusive Development : CBID）を図るためにには、

大学等の学術機関と行政の連携が不可欠です。北海道医療大学では、北海道内の行政組織と連携して、エビデンスに基づく健康施策（Evidence-based health policy: EBHP）の策定と実施に今後も協力して参ります。

## 次世代を担う方々へのメッセージ

国際保健と国内での公衆衛生活動は表裏一体の関係にあります。国際保健の場で得た知識や経験は、国内でも大きく役立ちます。そのような視点で、広く地域保健に関する視野を広げてもらいたいと思います。国際保健を主題とする学会参加も、大きな学びの場となります。多くの学会では学生参加費を減免しており、若い世代の方が最新の学術知見に触れる機会が増えてきています。その一例として、筆者が大会長を務めた日本国際保健医療学会第38回東日本地方会（2024年7月6日開催）をご紹介します（写真2）。この学会では、全参加者の四分の一が学生でした。学会のテーマが「国際保健におけるアクティブエイジングと地域リハビリテーション」ということもあり、いずれのセッションでも医療系学部生や大学院生が積極的に参加し、学びの機会を得ていました。特に、今回は日本国際保健医療学会学生部会と日本理学療法学生協会のジョイントプログラムをイブニングセッションとして併催し、日本における外国人居住者の健康問題についての熱い思いを実感することができました（写真3）。私たちは、若い世代の「思い」を「科学」に深化させる教育プログラムを提供して参ります。



写真1 マラ工科大学大学院（マレーシア）公衆歯科衛生学専攻の大学院生と筆者



写真3 日本国際保健医療学会学生部会と日本理学療法学生協会のジョイントセッション風景

# 日本国際保健医療学会 第38回 東日本地方大会 2024

**大会長：三浦宏子**  
北海道医療大学歯学部

**国際保健における  
アクティブエイジングと  
地域リハビリテーション**

**2024  
7月6日**

現地開催  
9:00開場 9:30開始

かでる2.7（北海道立道民活動センター）8階  
札幌市中央区北2条西7丁目

**大会HPはこちらから**

**お問い合わせ**  
[contact@jagh-east38.com](mailto:contact@jagh-east38.com)

**後援：JICA北海道**

**QRコード**

**地図**

写真2 日本国際保健医療学会第38回東日本地方会ポスター

大学間提携

提携大学(国名)	備考	提携年(最新更新年)
アルバータ大学(カナダ)	薬学部(1991年)、看護福祉学部看護学科(1995年)	1992年(2022年)
台北医学大学(台湾)		2004年(2019年)
中南大学(中国)		2007年(2023年)
極東国立総合医科大学(ロシア)		2016年
モンゴル国立医科大学	歯学部(2017年)	2023年

学部間提携

提携大学(国名)	提携学部	本学該当学部	提携年(最新更新年)
同济大学(中国)	口腔医学院	歯学部	1993年(2019年)
ニューヨーク州立大学バッファロー校(アメリカ)	看護学部・社会福祉学部	看護福祉学部	1996年
インドネシア大学(インドネシア)	歯学部	歯学部	2007年(2023年)
ストラスブール大学(フランス)	歯学部	歯学部	2010年(2022年)
中山大学(中国)	歯学部	歯学部	2014年(2019年)
マヒドン大学(タイ)	歯学部	歯学部	2015年(2020年)
イェーテボリ大学(スウェーデン)	歯学部	歯学部	2015年(2021年)
ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)	歯学部	歯学部	2016年
国立ルブリン医科大学(ポーランド)	歯学部	歯学部	2017年(2023年)
タフツ大学(アメリカ)	歯学部	歯学部	2018年(2022年)
チュラロンコン大学(タイ)	歯学部	歯学部	2018年(2023年)
シティ歯科大学(パングラデシュ)	Allied Health Sciences 学部	リハビリテーション科学部	2020年
スンシル大学(韓国)	社会福祉学部	看護福祉学部	2018年(2023年)
カトマンズ大学(ネパール)	歯学部	歯学部	2018年
キヨンヒ大学(韓国)	歯学部	歯学部	2019年
SEGi大学(マレーシア)	歯学部	歯学部	2019年
マラ工科大学(マレーシア)	歯学部	歯学部	2019年(2023年)
カトリック大学(韓国)	社会福祉学部	看護福祉学部	2019年
ハサスディン大学(インドネシア)	歯学部	歯学部	2023年
香港大学(香港)	歯学部	歯学部	2023年

表1 北海道医療大学 海外提携校